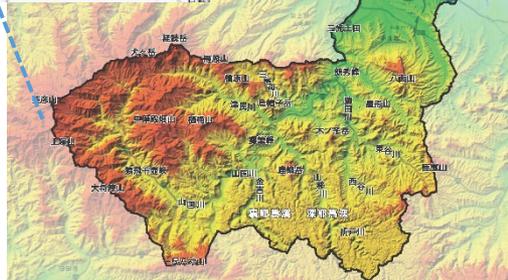


24 中津市文化財保存活用地域計画【大分県】

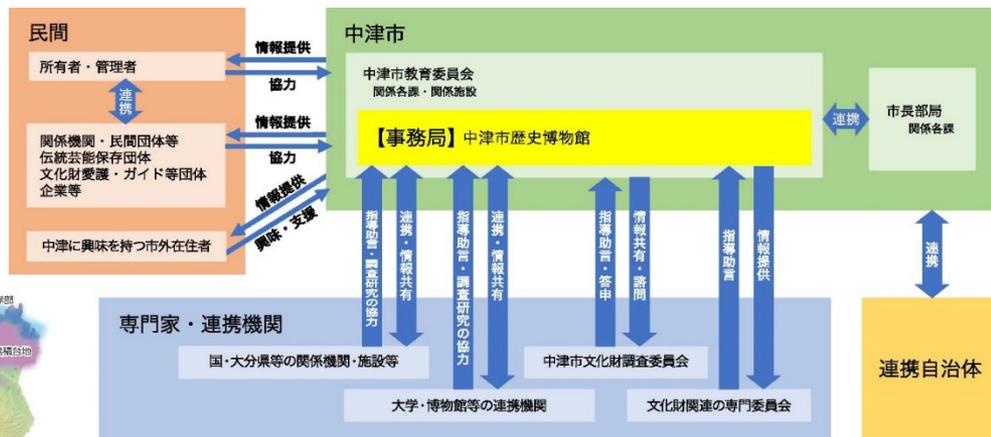


【計画期間】令和7～15年度（9年間）
 【面積】491.44km²
 【人口】約8.2万人

【関連制度】
 日本遺産「やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～」
 (H29年度)



推進体制



指定等文化財件数一覧

指定等文化財は、241件
 未指定文化財は、1,747件把握

類型		国指定・選定	都道府県指定	市町村指定	国登録	国選択	県選択	合計	
有形文化財	建造物	3	6	42	28	—	—	79	
	美術工芸品	絵画	0	1	2	0	—	—	3
		彫刻	2	6	16	0	—	—	24
		工芸品	0	4	7	0	—	—	11
		書跡・典籍	0	1	3	0	—	—	4
		古文書	0	0	9	0	—	—	9
		考古資料	0	1	2	0	—	—	3
歴史資料	0	1	12	0	—	—	13		
無形文化財		0	0	0	—	0	—	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	1	5	0	—	—	7	
	無形の民俗文化財	2	5	9	—	2	1	19	
記念物	遺跡	2	13	33	0	—	—	48	
	名勝地	1	0	2	1	—	—	4	
	動物・植物・地質鉱物	3	8	6	0	—	—	17	
文化的景観		0	—	—	—	—	—	0	
伝統的建造物群		0	—	—	—	—	—	0	
合計		14	47	148	29	2	1	241	

歴史文化の特徴

1. 山間部：奇岩奇勝の地形に根差した歴史文化

奇岩と溪流が織りなす神秘的な地形は、命をはぐくみ、祈りの地となり、芸術が生まれ、やがて広大な「名勝耶馬溪」が誕生した。

- ① 奇岩奇勝の地形
- ② 岩場に神仏を見る
- ③ 渓谷の交通インフラと広大な名勝地

2. 沖積平野と洪積台地：肥沃な大地に生きる歴史文化

渡来人の技術で開発された肥沃な大地には、宇佐八幡宮と密接に結びつきながら計画された「古代のまち」が生きている。

- ① 渡来人が伝えた技術
- ② 今も残る古代のまちづくり

3. 沿岸部：進取の気質が生んだ歴史文化

黒田官兵衛が山国川河口にお城を築いてから福澤諭吉が先導した近代化まで、中津の文化は「進取の気質」によって育まれた。

- ① 九州最古の近世城郭・中津城
- ② 蘭学・医学の先進地
- ③ 福澤諭吉と中津の近代化

【目指すべき将来像】「なかつの宝でなかつが輝く ー歴史文化資源をつなぐまちづくりー」

▲歴史文化資源の保存・活用に関する基本方針・課題・方針・措置の例

方向性1 「なかつの宝」を知り、 みんなで価値を共有する

【課題】①歴史文化資源の調査の課題
カ.調査成果をもとに、適切な評価をし、指定等の保護の措置を行う必要がある。

【課題】②情報発信と価値の共有化の課題
ケ.収蔵資料、市内文化財等のデータを公開できていない。等

【基本方針】1.歴史文化資源の把握の推進
方針3. 調査成果を基にした適切な評価と制度の周知

【基本方針】2.情報発信と価値の共有化
方針5. 歴史文化資源のデータベース化と公開 等

【措置の例】
措6. 歴史文化資源の適切な評価の実施
専門家等による指導・助言を受け、歴史文化資源の調査・指定・登録を適切に推進し、保護措置を検討する。
■R7~15 ■市民・行政・団体・専門家

措10. 歴史文化資源・刊行物等のデータベース化と公開
博物館収蔵資料、周知遺跡、指定文化財、調査報告書等刊行物をデータベース化し、他機関とも連携して公開する。歴史博物館のホームページに各データベースのリンク先を集約し、情報にアクセスしやすい環境を作る。
■R7~15 ■行政

方向性2 「なかつの宝」を守り、 未来へつなぐ仕組みをつくる

【課題】③保存整備の課題
セ.保存活用計画の作成及び見直しが必要な指定文化財がある。

【課題】④保護する仕組みの課題
又.過疎化高齢化による歴史文化資源の担い手が不足している。

【課題】⑤危機管理の課題
フ.文化財の防災・防犯の対応の整理が必要である。等

【基本方針】3.適切な保存整備の推進
方針11.保存活用計画の作成と見直しの実施
【基本方針】4.保護する仕組みの構築と強化
方針17. 歴史文化資源の保護に関わる機会の創出と担い手の育成
【基本方針】5.危機管理の推進
方針20. 防災・防犯対策の構築と強化 等

【措置の例】
措21. 保存活用計画の作成
必要に応じて指定文化財（耶馬溪橋・薦神社神門・中津城跡等）の保存活用計画を作成する。
■R7~15 ■市民、行政、団体、専門家
措39. アーカイブズ講座の開催
大学連携で実施しているアーカイブズ講座を継続開催。大学生を対象にアーキビスト養成を目指すとともに、市内高校生以上の市民参加を促し、襖下張り文書の扱いを市民が学ぶ場とする。
■R7~15 ■市民、行政、専門家
措49. 防災・防犯視点の文化財の現状把握
文化財の現状を把握し、ハザードマップに歴史文化資源の所在地を落とし込む。日ごろの見回りとしての文化財パトロールを実施する。
■R7~15 ■市民、行政、団体、専門家

方向性3 「なかつの宝」を磨き、 地域の魅力を発信する

【課題】⑥歴史文化資源を活かしたまちづくりの課題
メ.樹木の繁茂により、耶馬溪の奇岩奇勝の景観が損なわれている。

【課題】⑦歴史文化資源の活用と発信の課題
ヤ.文化財の魅力を発信する拠点施設の機能を強化する必要がある。等

【基本方針】6.歴史文化資源を活かしたまちづくりの推進
方針23.良好な景観形成の推進

【基本方針】7.歴史文化資源の観光への活用と魅力発信
方針25.拠点施設の機能充実 等

【措置の例】
措56. 景観の保全の実施
耶馬溪の景観を阻害する草木などを除去し、景観保全を図る。
■R7~15 ■市民・行政

措58. 拠点施設の魅力アップと観光機能充実
中津市歴史博物館をはじめ、市内各館で城下町観光・中津市全体の観光情報を提供できるよう、中津耶馬溪観光協会との連携を密にする。中津城（奥平家歴史資料館）や自性寺大雅堂など民間施設、市内各地の観光拠点とも情報共有を行い、連携企画の開催などを通じて、相乗効果を図る。
■R7~15 ■市民・行政

関連文化財群 と 歴史文化資源保存活用重点エリア（文化財保存活用区域）

11の関連文化財群

市内に点在する歴史文化資源を、指定・未指定にとらわれず群としてとらえることで、中津市独自の歴史文化を浮き上がらせる。

3つの歴史文化資源保存活用重点エリア
歴史文化資源に地形・景観を重ね、「やばけい遊覧エリア」「古代のまちづくりと信仰のエリア」「中津城下町と海のエリア」と名付け、それぞれの特徴に応じた整備活用を重点的に推進する。

A 自然と共生した縄文人

洞穴や自然堤防上の利用、多くの縄文人骨や出土品は、自然と共生した縄文人の暮らしや精神文化を物語っている



B 横穴墓の隆盛と国づくりを支えた渡来人

横穴墓が主流となった古墳時代後期、窯業や築堤、寺院建立等の公の事業に、渡来系集団の活躍が見える



C 市の原点一律令が残るまちー

官道・条里・郡衙・寺院と、「古代下毛郡」のまちづくりが、今も中津市の町に生きている



D 耶馬溪の奇岩奇勝に見出された神仏

耶馬溪の奇怪な景観に人々は神仏を見、岩窟は修行者達の行場となり、多くの仏像・神像・石造物が納められた



E 傘鉾がめぐる古代以来の灌漑遺産と中世・近世のムラの景観

ため池、条里制、井路の築造と、古代・中世以来1300年生きた続ける灌漑遺産が中津の田を潤している



F 在地領主野仲氏と中津の中世

県内最多の中世城館・寺社・古文書・石塔・祭り等、中世を生きた在地武士達が残した文化は今も息づいている



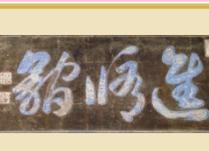
G 中津城と城下町、つなぐ街道と宿場

中津城周辺には城下町の面影が残り、往時の街道も私達の生活の一部として受け継がれている



H 学問の奨励と先哲たちの足跡

奥平氏の学問奨励から近代社会を牽引した福澤諭吉まで、中津市には時代に先駆けた知者を生む土壌があった



I 福澤諭吉が目指した近代社会ー近代産業とその遺産ー

中津市の行政・教育・産業・交通は、福澤諭吉や福澤門下生らの先導によって近代化の道程を進んだ



J 観光地「耶馬溪」をつくるー橋・道・鉄道が導くやばけい遊覧ー

耶馬溪に残る石橋、旧道、石碑は、奇岩奇勝を観光地として発展させた人々の努力の足跡を伝えている



中津城下町と海のエリア

中津城下町と、山国川河口及び周防灘沿岸部のエリア。町並み景観の保全が図られ、中津市歴史博物館をはじめとした文化財関連施設が集中。沿岸部には希少生物が多数生息する中津干潟が広がる。



古代のまちづくりと信仰のエリア

「長者屋敷官衙遺跡」（国指定）と関連する古代遺跡が集中するエリア。古代遺跡と共存する町をつくり、地域全体の活性化につなげる。



やばけい遊覧エリア

「耶馬溪」と総称されるエリアで、奇岩と溪流が織りなす49景が存在する。日本遺産「やばけい遊覧」の舞台で、官民協力して文化財を活かした地域活性化を推進している。



K 神の鎮まる山に育まれた祭りと人々の営み

山や川の恩恵を受けて暮らす人々の営みの中で、聖なる山や川への独特な信仰と民俗芸能が生まれた



